



11月号

index

- ◆ 1ページ
 - ・研修の様子 (新任学年主任研修)
 - ・学校の取組紹介 (己斐小学校)
 - ・今月のお勧め資料 (新任学年主任研修)
 - ・特別セミナー案内
- ◆ 2ページ
 - ・言語活動の充実シリーズ「理科編」



10月28日(火)に、早稲田大学大学院教職研究科の田中博之教授をお迎えし、新任学年主任研修を行いました。この研修は、新任の学年主任の先生方を対象に、学年経営上の課題に適切に対応する力や学級づくりについての力量を高めることをねらいとして行っています。

田中教授からは、「一人一人を大切に学級づくり」をテーマに、学年経営の基盤となる学級力を向上させるという視点で講義をしていただきました。

学級力には、目標をやりとげる力、話をつなげる力、友だちを支える力、安心を生み出す力、きまりを守る力の5つの領域(中学校では、さらに自律力を加える。)があり、それを子どもたちに意識化させ、更にR(診断)-PDCAサイクルで取り組む大切さを教えていただきました。

また、学級マネジメント力を教師自らがチェックできるシートを紹介され、学年経営についての活用方法についても示されました。当日の資料は、教育センター内部Webページにて掲載しています。今月のお勧め資料をぜひごらんいただき、先生方の学級力向上にお役立てください。

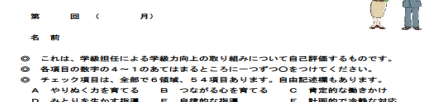
安心して学校生活を送るために

～学校全体で取り組む学級力向上プロジェクト～

己斐小 校

今月のお勧め資料

学級マネジメント力 セルフチェックシート



「新任学年主任研修」での田中教授の資料を内部WebページにUPしています。R-PDCAサイクルの説明やすぐに使えるアンケート資料です。

SEARCH 広島市教育センター GO

土曜開館特別セミナー

お悩み解決シリーズ 第6回 「保護者対応力をつけよう —事例演習を通して—」

今回は、事例ビデオを元に、ディスカッションやロールプレイングを行います。事例演習を通して、保護者対応について一緒に考えてみませんか。電話またはFAXで申し込みください。

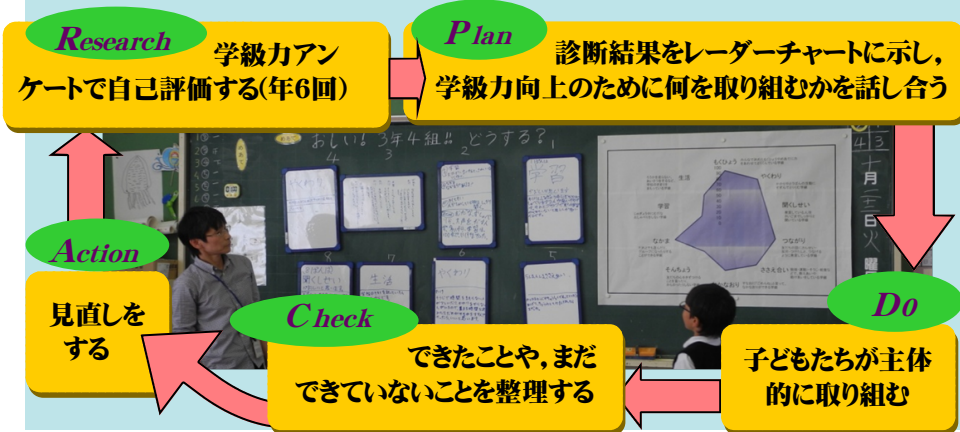
11月15日(土) 13:30~15:00

己斐小学校は、子どもたちに豊かな人間関係を築き、安心して学校生活を送って欲しいと願い、以前より特別活動を研究領域とし、熱心に学級活動に取り組んできました。平成25年度からは、早稲田大学大学院教職研究科田中博之教授の指導を受けながら、学級力向上プロジェクトに取り組んでいます。



学級力向上プロジェクトとは、学級力を向上させるために、子どもたち自身が学級力アンケートに回答し、その診断結果を基にして、クラスの実態を把握し、クラス全員で学級力向上のための取組を実践しようとするプロジェクト学習です。

学級力向上プロジェクトを実施することで、これまで以上に、学級経営に子どもを参画させることができるようになりました。年度末の学級の振り返りにおいて自分の学級の良さを黒板一面に書くことができた学級もありました。子どもたち自身が学級力を常に意識できるようになり、自主的・自治的な問題解決ができるようになってきたことが大きな成果です。



理科は、「観察・実験」という体験を重視した教科です。その教科の特色を大切にしながら、言語活動の充実を図る場面は、問題解決の学習過程において、「**仮説（予想）を立案する場面**」と「**考察から結論を導出する場面**」の2場面です。小学校第6学年「水溶液の性質」の学習問題を例に「**考察から結論を導出する場面**」を充実させる工夫を考えてみましょう。あなたならどんな考察を期待しますか？ 考察を書かせるためには、「**考察に必要な3つの要素**」を意識して記述させることが大切です。

【学習問題】アルミニウムに塩酸を注ぐと、気体が発生して溶けます。このアルミニウムを溶かした塩酸を蒸発皿に入れて蒸発させると、溶けていたものが出てきました。「出てきたもの」はもとのアルミニウムと同じでしょうか。

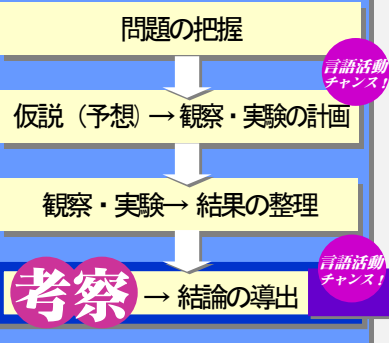
【実験方法】※ここでは、アルミニウムを溶かした塩酸を蒸発させたものを「出てきたもの」と表記する。

- ① 2つの試験管に、出てきたものとアルミニウム片を入れて、塩酸を入れる。
- ② 2つの試験管に、出てきたものとアルミニウム片を入れて、水を注ぐ。
- ③ 出てきたものと溶かす前と同じ重さのアルミニウムを天秤で図る。



考察に必要な
3
つの
要素と構成！

問題解決の過程



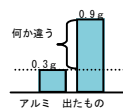
期待したい考察例



私は、「出てきたもの」は見た目が違っていても、アルミニウムの性質は残っているという仮説でしたが、私の仮説は違っていました。

【実験結果の引用】実験の結果、「出てきたもの」は、①塩酸にはあわを出さずに溶けて、②水にもあわを出さずに溶けて、③もとの重さよりも重くなりました。【分析】①と②の結果から、「出てきたもの」はアルミニウムとは違う性質をもっていると考えられます。また、③の結果から重さが増えたということは、アルミニウム以外の何かがひっついたと考えられます。

つまり、「出てきたもの」は、アルミニウムとは別のものに変化したという結論になると考えられます。



児童生徒の考察文が充実しないと感じておられる先生方、まずは、考察文を書かせる前に、**発問によって「考察に必要な3つの要素と構成」**を明確にさせましょう。児童生徒が自分で判断して書くことができるようになるための第一歩です。

教師の発問例

教師：実験①、塩酸に溶かした場合の**結果**を発表してください。（**考えではなく事実の明確化**）

児童A：塩酸には「出てきたもの」はあわを出さずに溶けました。

教師：「出てきたもの」しか溶かしてみなかったの？（**対照実験の存在の明確化**）

児童A：アルミニウムも塩酸にあわを出して溶けました。

教師：そうだったね。それでは、今のをまとめて言ってみて。（**比較を意識した発言の要求**）

児童A：アルミニウムは塩酸にあわを出して溶けたけど、「出てきたもの」は塩酸にはあわを出さずに溶けました。

教師：2つを比較した発表は分かりやすいね。（**価値づけ**）

教師：実験②水に溶かした場合の結果はどう？

児童B：「出てきたもの」は水にあわを出さずに溶けたけど、アルミニウムは水には溶けませんでした。

教師：比較して発表できましたね。（**価値づけ**）実験③の結果はどうですか。

児童C：「出てきたもの」の重さは、3倍ぐらいに増えました。

教師：何と比べて？（**科学的な表現の要求**）

児童C：「出てきたもの」は、元のアルミニウムと比べて、3倍増えました。

教師：「～と比べて」がポイントですね。（**価値づけ**）

教師：では、3つの実験結果から何が**分かる**？（**事実を基に分析することを要求**）

児童D：「出てきたもの」は、アルミニウムとは確実に違うものだという事です。

教師：そう言えそうですね。それでは、この結論に実験結果を合わせて説明してみてください。（**論理的説明の要求**）

児童E：「出てきたもの」は、アルミニウムと比べて、塩酸や水に溶ける性質も違うし、

重さも変化したので、アルミニウムとは違うもの変わったと思います。

教師：根拠に基づいた結論が導けましたね。（**モデリング・価値づけ**）

教師：それでは、自分の仮説を確認して、自分の考察を書きましょう。



Step Up!

書き方モデル

考察
①今日は、～（問題の内容）を調べました。【問題】
②わたしの予想は、〇〇でした。【予想】
③～のときの〇〇の変化を調べました。【実験の説明】
④結果は、～でした。【結果】
⑤予想と同じで（ちがって）～でした。【結果からわかったこと】
⑥友達（他のはん）の実験の結果とくらべると、～でした。
⑦このことから、～ということがわかりました。
つまり、～ということが言えます。
★さらに、～についてもっと調べたいです。【新たな疑問】
★他のことにたとえと、～ということです。
身の回りの～も、このことから～とわかりました。【生活の中から】

川内小学校 横山京子教諭は、「書き方モデル」を提示し、児童がいつでも基本文型を使えるような支援をされています。教育センター内部Webからダウンロード可能です。

SEARCH 広島市教育センター

考察

は、実験結果を根拠として、科学的に妥当な「結論」を導く言語活動です。「比べる」「関連づける」「分析する」などの問題解決のスキルを育成する絶好のチャンスです。

各学校の状況に応じて、それぞれの段階に応じた手立てを実施し、科学的に妥当な結果を導く力を身に付けさせましょう。